



真崎城の白百合姫

おかめ笠ぬき田

村内のあらゆる場所が民話の舞台となっています

須和間の鬼



自方城のお殿様



石神社のはなし



歩いてみよう 舟石川



ヤンサマチ



流れついた霊木



特集

民話が紡ぐ村の姿

今月の表紙



「知っている地域のお話はあるかな？」先生に民話の紙芝居を読んでもらった、けやきの杜保育所のらいおん組の皆さんです。お話を聞く時は集中して、撮影の時には元気いっぱい紙芝居を見せてくれました。

村に伝わる民話

令和7年3月、村は発足70周年を迎えました。70年前に「東海村」と名付けられる以前も、数千年にわたりこの地では人々が生活を営み、文化や風習が育まれてきました。

文字が一般に普及しておらず、印刷技術も未発達だった時代、こういった歴史や風土は「民話」として先人たちの口伝により伝えられてきました。東海村内だけでもなんと、約280作品（東海村のみかし話と伝説付・わらべ唄）の民話とわらべ唄が現在まで伝わっています。

生活や思いが描かれる

口伝で受け継がれてきた民話は、その土地ならではの言葉にふれ、当時の自然や生活を描いています。天神山にあった城にまつわる

話、石神城付近を大きく蛇行する久慈川、村松海岸沿いでの大規模な祭り。現代では見ることができない村の姿も民話の中で存在し続け、親から子へ、子から孫へと語り継がれてきました。時には娯楽として楽しまれ、時には教訓を語り継ぐ話の数々は当時を生きる人々に愛され、現在の私たちに村のこれまでを伝えてくれます。

今回の特集では、「民話再生の会」の皆さんが作った紙芝居から村に伝わる民話をご紹介します。当時の村の姿と、民話を語る皆さんの思いをお伝えします。



▲グルービーの木公園にある「真崎落城と白百合姫」の看板。民話ゆかりの地であることから、公園の建設時に設置されました。本紙5ページにストーリーの一部を掲載しています。



真崎城の白百合姫

天神山のお城に白百合が大好きなお姫様が住んでいました。ある日、戦が始まりお城が攻め込まれてしまいます。逃げられないことを悟った姫は「愛する白百合とともに死のうぞ」と亡くなってしまいます。

悲しい戦の後、姫の思いと真崎の白百合の花はどうなったのでしょうか。…(つづく)

天神山にはお城があった！
東海村を守っていたんだね。



「真崎城の白百合姫」は、平成20年の民話フェスティバル(国民文化祭)をきっかけに舞台化しました。初めて団員が脚本を書き上げ、これまでに数回上演している劇団とみかるの看板作品です。原作を大切にしつつ、分かりやすく伝えることや、見た人に楽しんでもらうことを第一に、脚本や演出を考えています。白百合姫は悲しいお話ですが、悲しいだけでは終わらないミュージカル独自の展開もあるんですよ。上演後のアンケートでは「村の歴史を知ることができて良かった」や「真崎の見え方が変わった」等の感想をたくさんいただいています。私たちとしても「舞台を通して郷土の歴史や魅力を伝えたい」という思いが皆さんに届いてうれしい限りです。今年12月には「真崎浦の干拓」を元にした新作「海を呑んだ長治郎」を上演する予定です。東海村でしか見ることができない舞台ですので、多くの方のご来場をお待ちしています。

劇団とみかる

平成16年設立。地域の皆さんにミュージカルの楽しさを伝え、村にミュージカル文化を根付かせようと活動中です。



▲HPはこちら

とみかる公演情報(入場無料・全席自由)

▼ミュージカルまつり2025「ユメと魔法の国」6月22日(日) ①11:00開演 ②14:00開演 / 中丸コミュニティセンター

▼東海村発足70周年記念オリジナルミュージカル「海を呑んだ長治郎」①12月20日(土) 18:00開演 ②12月21日(日) 13:30開演 / 東海文化センター

東海村の民話あれこれ

『民話紙芝居集 東海村の民話』より

村に伝わる民話・わらべ唄は約280作品。このうち30作品が「民話再生の会」により紙芝居化されています。ここでは、紙芝居化された作品から一部の物語をご紹介します。

おかめ笠ぬき田

昔、石神の辺りに「笠ぬき田」という底なしの田んぼがありました。近くの川が決壊したので、旦那さんは川の普請(工事の手伝い)へ行くことに。奥さんの「おかめ」が一人で田植えをしていたところ、疲れてうとうとしてしまい、深い田んぼにはまってしまう。…(つづく)

村には田んぼや農家が出てくる
民話がたくさんあるんじや。
東海村がかつては農村だったことが
よく分かるのう。



東海村の年中行事 お盆

お盆に東海村のおばあちゃんの家遊びに来たなっちゃん。お盆ってどんな準備をして、何をやるんだろう。庭先に高灯籠を立て、盆棚やキュウリの馬を作り、盆礼回りをする。盆踊りには霊を慰め、送り出すという意味があることなど、昔ながらのお盆の過ごし方をおばあちゃんからたくさん教わります。…(つづく)

時代とともに変わりゆく行事の過ごし方。
おばあちゃんが昔から伝わる振る舞いと
その意味を教えてくれるわ。



真崎浦の干拓

昔、真崎の辺りには海とつながる大きな沼が広がっていました。江戸時代、飢饉が続き困窮した村を救うため西野長治郎は沼の干拓事業を始めました。排水路を築き、水を抜き、土地を整備する。重労働の干拓事業はなかなか進みません。真崎浦の干拓は成功するのでしょうか。…(つづく)

真崎周辺は昔は海だった！
先人の強い思いが、
今の村の形をつくったと伝わるね。



民話を語る —Interview—

20年以上にわたり、東海村の昔話や伝説を調べ、紙芝居作りをしてきた「民話再生の会」の皆さんに民話の魅力を知りました。

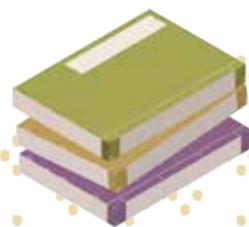


地域を知るって面白い
 始まりは平成13年の中央公民館講座でした。そこから、有志の受講者で平成16年に民話再生の会を結成し、現在に至るまで東海村の民話を学び・語り続けています。当時、少しでも多くの方へ民話を伝えるために2班に分かれて『東海村のむかし話』と伝説付・わらべ唄にある民話から紙芝居を作ることになりました。紙芝居は1年間かけて1つの作品を作ります。口伝の情報から歴史的背景や当時の文化などを徹底的に調べ、誰にでも分かりやすい物語としてまとめるとても大変な作業でした。調べ上げた情報のどの部分を削るのか、どういう表現をするのか、まさに、侃々諤々です。ただ、この時間が楽しかったんです。紙芝居の要となる絵が完成した時の感動もひとしおでしたね。

全員の根底にあったのは「住んでいる地域を知って面白い」という思いでした。民話には愉快な話もありますが、自然の脅威や戦の悲哀など、ありのままが語られています。先人の思いや、現在では想像できない地域の姿を知ることができるところは民話の大きな魅力ですね。

子どもから大人まで 故郷を知るきっかけに
 民話紙芝居はこれまでに30作品制作しました。思えば深い作品の一つに、白方小学校の移転時に作った「白方城のお殿様」があります。子どもたちと一緒に豊受皇大神宮など現地を歩いたり、古文書から白方地区の歴史を調べたりして作りました。現代にはない物や言葉も多いので、子どもたちがすぐ想像力を働かせてくれています。自分たちが住む地区の偉い人なので「お殿様は賢くて勇敢な人にしてよ！」なんて盛り上がりました。大人になった皆さんとまた会いたいですね。

長年紙芝居作りをしながら、依頼をいただいた時には地域の集まりや、東海高校の授業などで村の民話紙芝居を演じています。高校生や大人向けの場合、物語に加えて、その民話にまつわる歴史的背景や自然環境、生活習慣なども説明しているんです。故郷のことに興味を持つきっかけになっているとうれしいですね。



語りで心のつながりを
 紙芝居が30作品完成し区切りがついたので、実は、去年をもって会を解散する話も出たんです。ただ、紙芝居を見てくださる皆さんの顔を見ると、やる気に火がついてしまふんですね。新たな試みとして、イベントなどで皆さんにもぜひ、民話紙芝居を演じてもらいたいと考えています。紙芝居でしか味わうことができない体験をしてもらい、民話の奥深さを感じていただきたいです。民話を通して地域の歴史や文化を知ることがもちろん、人と人との心のつながりを築ければ良いと思います。

民話を継承する

民話は口伝であるため、文字や音声などの記録として残さないと、いつの間にか消えてなくなってしまいます。大切なふるさとの記憶を次世代へとつなげるため、村内で日本各地に伝わる民話を継承する皆さんをご紹介します。どの団体も一緒に民話を語る仲間を募集中ですので、興味がある方はお気軽にお問い合わせください。



民話再生の会

活動：月に1～2回
活動場所：中央公民館など
 東海村の民話を紙芝居にして普及する活動をしてきました。現在は、中央公民館と協力し、民話紙芝居のDVDを制作しているところです。また、村の文化祭では民話紙芝居を上演しています。
問 中央公民館 ☎282-3329



だっぺの会

活動：第2水曜日、第4金曜日 ほか
活動場所：総合福祉センター「絆」など
 朗読スタイル(台本を手に持つ形)で民話を語ります。定例勉強会のほか、地域のサロンなどで語る活動をし、年に1度の発表会直前にはプロの朗読家である見澤淑恵さんに指導をいただき、各自の「語り」に磨きをかけています。
問 ボランティア市民活動センター「えがお」 ☎283-4538



風土の会

活動：第2・4火曜日 ほか
活動場所：中央公民館など
 元茨城キリスト教大学教授の川本欣治さんに師事し、俳優の故・沼田曜一氏の昔語りを学んでいます。練習するだけでなく、村内学童クラブや地域の集まりなどへ出向き、民話を伝える活動を行っています。
問 中央公民館 ☎282-3329



とんと昔語りの会

活動：第5土曜日
活動場所：中央公民館
 茨城県内の語り部が集う「常陸みんなの会」から東海村近隣のメンバーが集まり、誕生しました。第5土曜日には中央公民館で民話を語るイベントを行っています。聞き手の皆さんがイメージしやすいように民話の一場面を布絵にするなど工夫しています。
問 中央公民館 ☎282-3435

だっぺの会よりお知らせ
 第10回
 民話とふれあいませんか
 期日 ▼ 6月25日(水)
 時間 ▼ 午後1時30分～3時
 場所 ▼ 総合福祉センター「絆」
 問 ボランティア市民活動センター「えがお」 ☎283局4538 ※事前申し込みは不要です。

電子図書館でも民話を閲覧できます♪

ご紹介した民話に関する紙芝居などは中央公民館で貸し出しています。